



化学品カンパニー事業概況



当社のフッ素樹脂フィルムが2006年ワールドカップのメインスタジアムの側面、屋根材として全面採用されることになりました

旭硝子株式会社

2004年6月15日

【予測に関する注意事項】

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(業績計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権は旭硝子に帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

旭硝子 事業概要

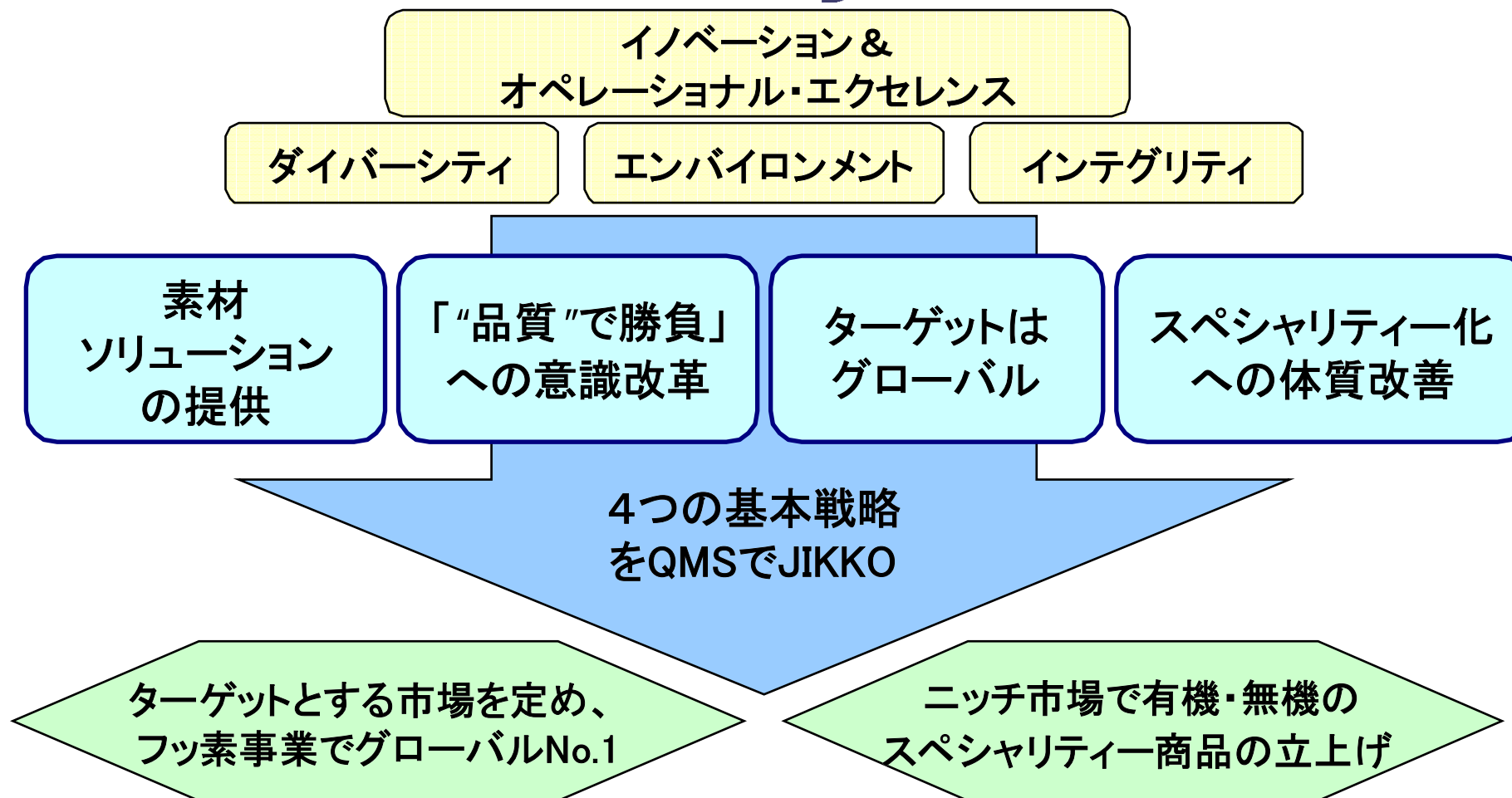
()内:2003年12月期実績

旭硝子(AGC)グループ (売上12,430億円、営業利益832億円)



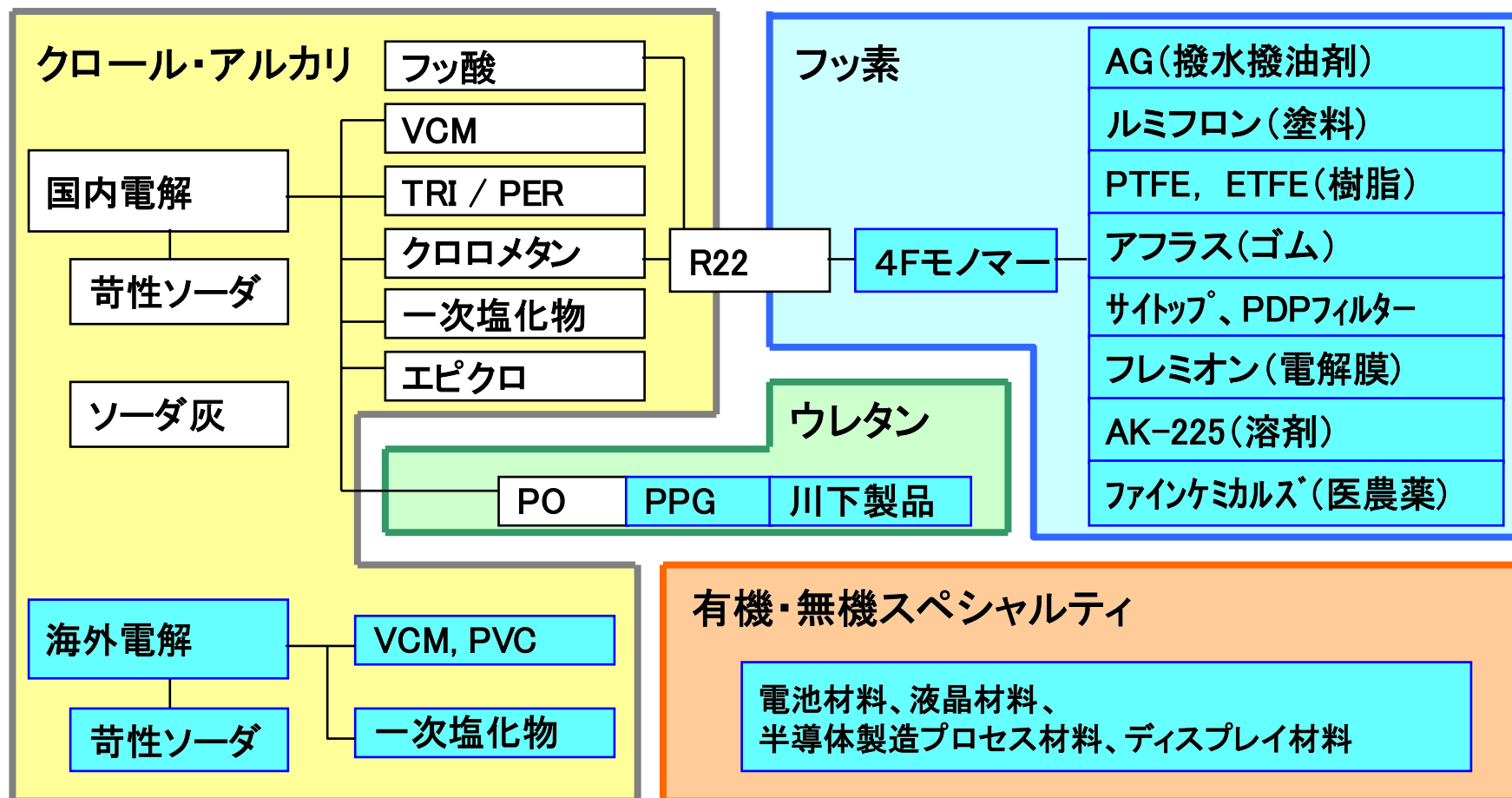
化学品カンパニー 基本戦略

“Look Beyond”



化学品カンパニー 事業概要

- 化学品カンパニーは、フッ素事業、クロール・アルカリ事業、ウレタン・有機無機スペシヤリティ事業から構成される



1. フッ素事業

フッ素事業 戦略

- グローバルなターゲット市場を定め、資源を集中投入する
- 旭硝子独自のフッ素化学技術により高品質なソリューションを提供する

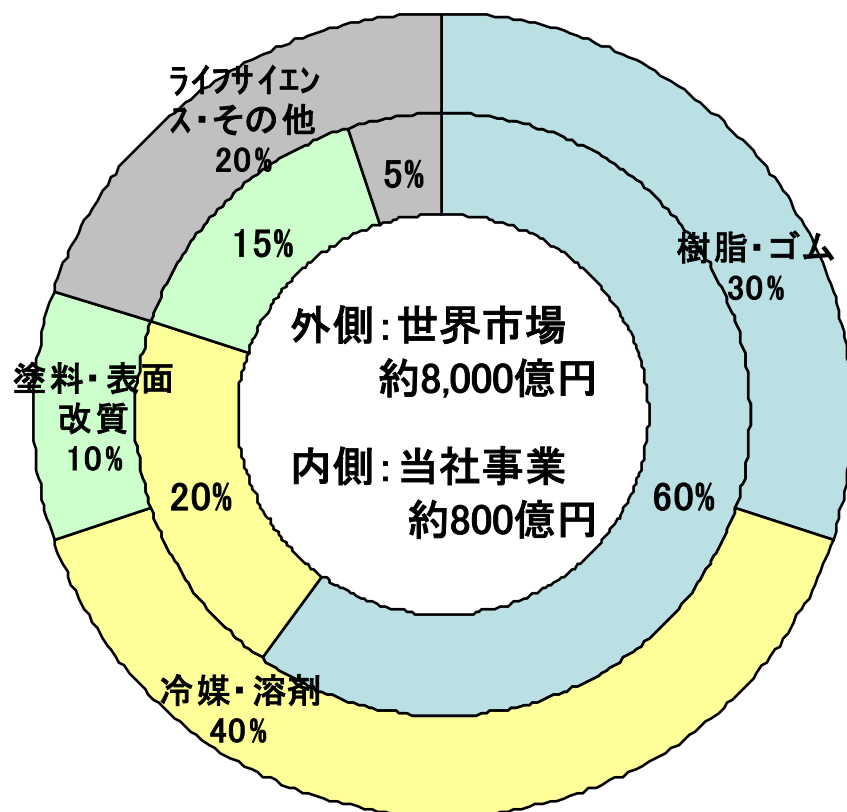
<重点施策>

- 日米欧3極体制でETFE樹脂を中心にフッ素事業のグローバル展開を図る
- PDPフィルターは社内技術の複合による優位性を活かし、成長市場の50%シェアを維持する
- 建築分野への膜構造物フィルム拡販を強化
(独ワールドカップスタジアムの側面・屋根にETFEフィルムを受注)
- 欧米のPTFE樹脂事業は、コストダウンと高機能商品投入により収益改善を図る

フッ素化学 世界市場と当社事業の構成

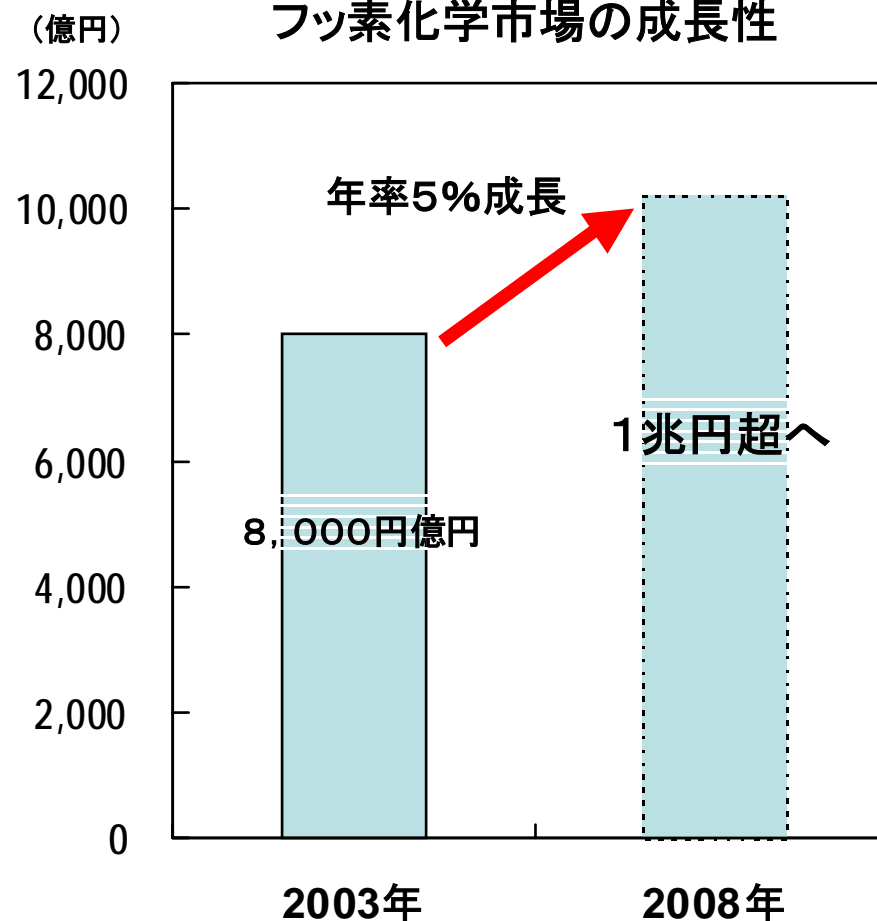
- フッ素市場は年率5%程度の成長が期待される
- フッ素の最大用途である「冷媒・溶剤」市場は縮小傾向だが、他用途の市場は大きな伸びが期待される

フッ素化学市場

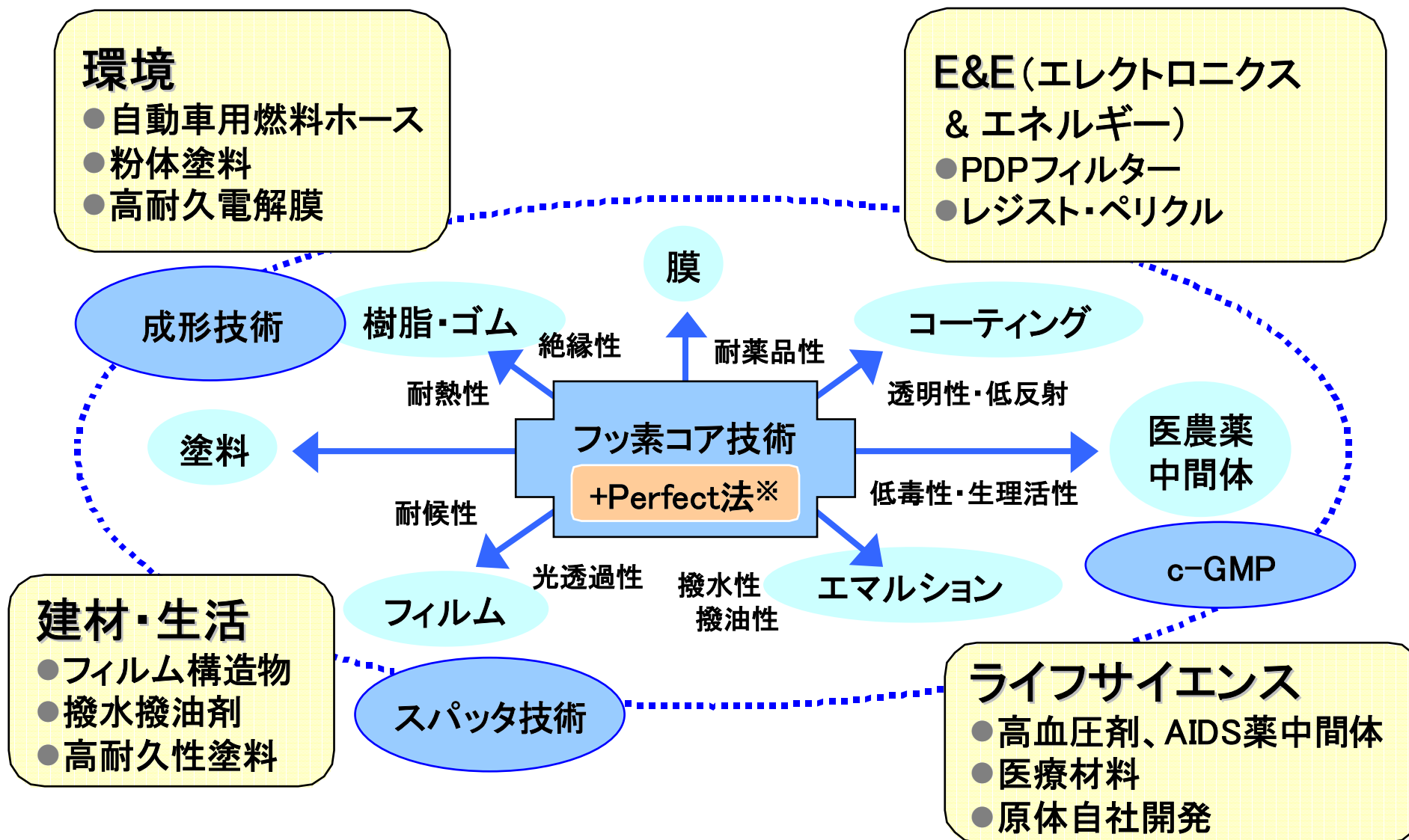


(2003年:当社推定)

フッ素化学市場の成長性



フッ素化学市場と当社製品

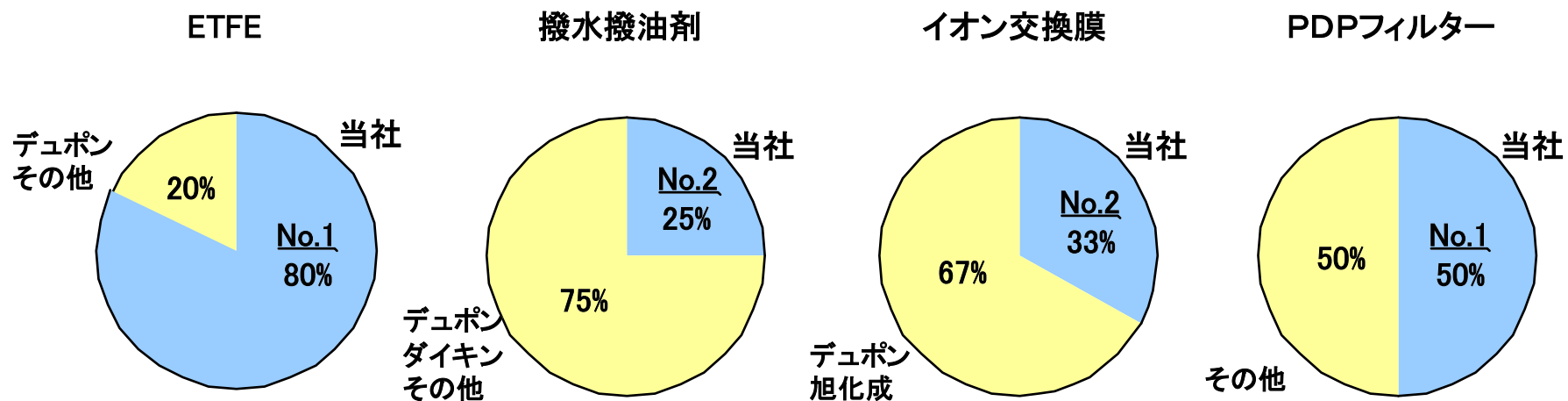


※Perfect法: 炭化水素化合物とフッ素ガスを原料として、フッ素化合物を合成する旭硝子独自の技術
この技術により、より多機能のフッ素化合物を合成することが可能となる

フッ素化学主要製品の世界シェア

強み

- ETFE、サイトップ、燃料電池ポリマーなど独自性のあるフッ素関連製品を有する
- スペシャリティー化に対応できるフッ素化学技術を保有している
- 成型加工技術・複合化技術・リサイクル技術にも取り組んでいる



(シェアは当社推定)

欧米のフッ素事業展開

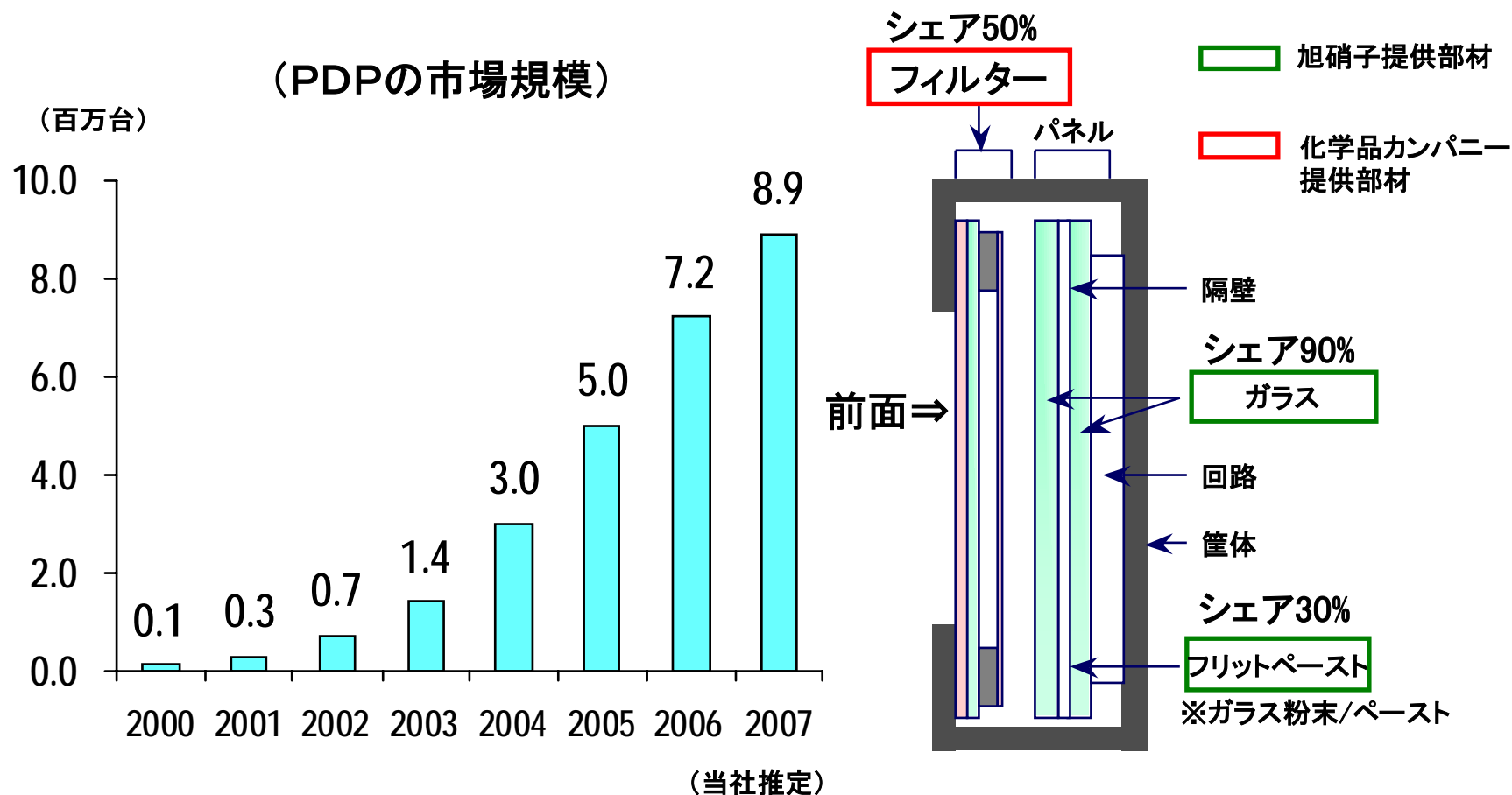
- 欧米PTFE樹脂事業の収益を、コストダウンと高機能商品投入により改善
- 米国拠点をフッ素関連製品の主要生産拠点と位置づけ、2004年より、フッ素系溶剤生産開始、将来的にはETFE樹脂の生産も視野に

会社名	現状	改善施策	目標
AGCケミカルズ・アメリカ※ (米国)	米国PTFE市場の低迷、競争激化による市場価格下落で苦戦	<ul style="list-style-type: none"> ・徹底的なコストダウン ・高付加価値製品へシフト ・原料モノマー能力を生かし、PTFE樹脂以外のフッ素製品への展開 	当面の目標としてPTFE事業単独で黒字化を目指す
旭硝子フロロポリマーズUK (英国)	徹底的なコストダウンにより、昨年後半から黒字化達成	<ul style="list-style-type: none"> ・高付加価値製品へシフト 	安定的な収益力確保を目指す

※ AGCケミカルズアメリカ社は、2004年1月に経営効率化を目的として旭硝子フロロポリマーズUSA(フッ素樹脂製造販売)とAGAケミカルズ社(化学品販社)を合併させ、設立した会社。

PDPフィルター事業展開

■ 社内技術の複合による優位性を活かし、50%シェアを維持する



(参考) 旭硝子のフッ素化学技術の強み

技術	内容	応用例
フッ素化合物合成技術	コバルトフッ素化、KFフッ素化、選択的フッ素化、直接フッ素化 (Perfect法)により、電子・ディスプレイ分野を含め、新規多機能用途への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・混合冷媒 ・医療用冷媒 ・次世代ペリクル ・光ファイバー ・電解膜
パウダー化技術	有機溶剤を使用しない塗料として、環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> ・粉体塗料 ・回転成型用フッ素樹脂 ・静電塗装用樹脂
フィルム化技術	スパッタ・成型加工・複合化技術により、高機能薄膜化対応	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンハウス用フィルム ・構造物用フィルム ・光学フィルター
精密重合技術	交互共重合 (高耐熱性、耐候性を付与)	<ul style="list-style-type: none"> ・ETFE樹脂 ・フッ素ゴム ・塗料用フッ素樹脂

(参考)各商品の状況

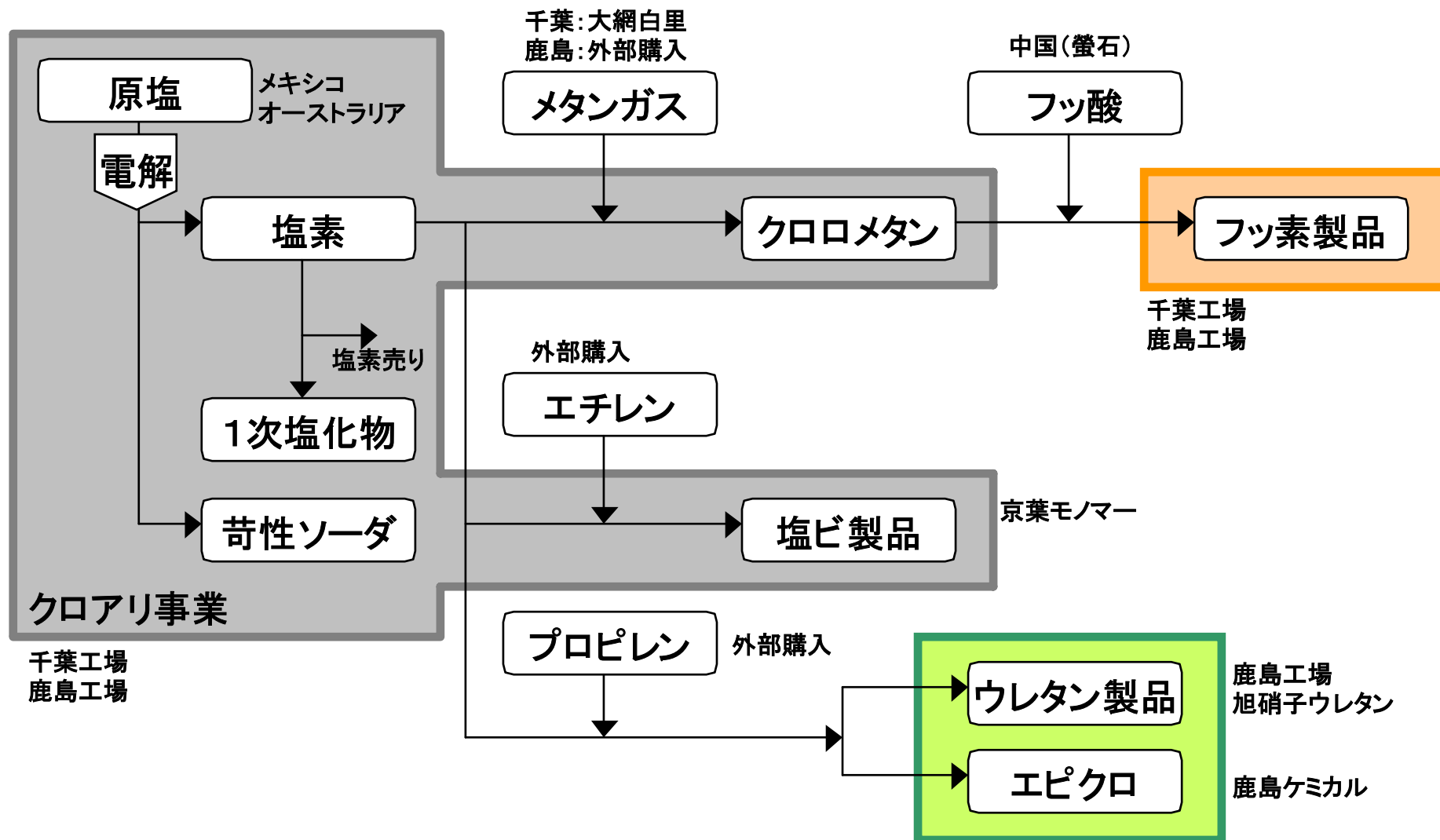
商品	状況
フッ素樹脂 フルオン ETFE	新規市場として燃料ホース・膜構造物が本格的な立ち上がり 既存市場である電線被覆、グリーンハウス用途堅調
フッ素ゴム アフラス	自動車部品、電線被覆用途の拡大、欧米市場開拓の成功
塗料用ワニス ルミフロン	LCC(ライフサイクルコスト)、資産価値保持意識の拡大による市場伸長
撥水撥油剤 アサヒガード	アジア・中国市場での高級衣料市場拡大
溶剤・溶媒 アサヒクリン	米国航空宇宙向け米国生産開始、アジア代替溶剤市場拡大
イオン交換膜 フレミオン	クロール・アルカリ電解設備増、燃料電池の実用化
透明性フッ素樹脂 サイトップ	ペリクル、光学フィルター、光ファイバー等の用途拡大

2. クロール・アルカリ事業

クロール・アルカリ事業の戦略

- 国内電解事業を原料・ユーティリティ供給部門と位置付け、適正規模まで縮小
⇒立地条件を活かした東日本での販売に注力し、キャッシュ・カウ事業とする
- 国内塩ビ事業は構造改革により適正規模へ縮小
⇒現在はキャッシュ・カウとして貢献
- インドネシア・タイで最大のクロール・アルカリメーカーとしてポジションを強化

国内クロール・アルカリ事業構造



国内クロール・アルカリ事業 構造改革施策

■ 電解事業

- '01 苛性ソーダ事業を東日本に集約化
関西クロールアルカリ社解散(苛性ソーダ4万t/年の能力減)
- '02 北九州工場での苛性ソーダ製造(1万t/年)停止

■ 塩ビ事業

- '98 旭ペンケミカル社での塩ビ製造停止(VCM 5万t/年の能力減)
- '99 千葉塩ビモノマー社解散(VCM 22.6万t/年の能力減)
鹿島塩ビモノマー社(VCM 60万t/年の能力)からの引き取り枠返上
- '02 PVCの委託生産と販売(6万t/年)中止

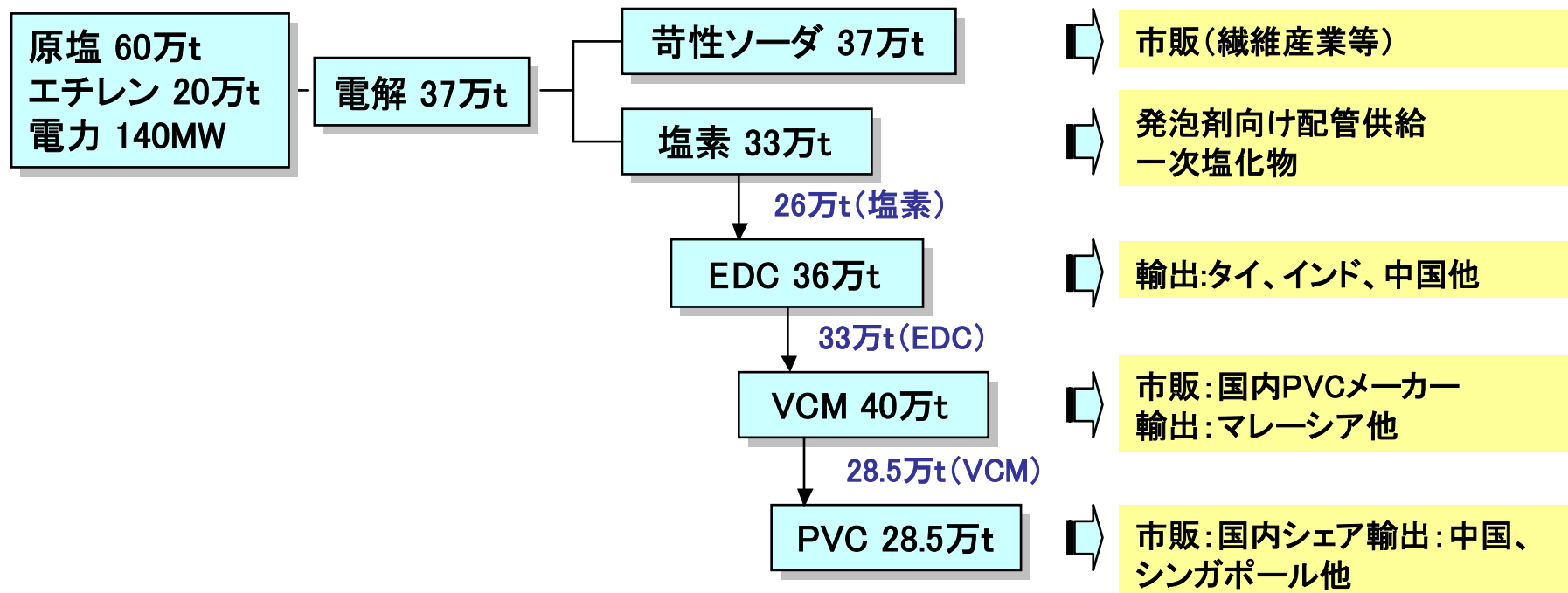
■ ソーダ灰事業

- '97 千葉工場での合成ソーダ灰製造(17万t/年)停止
- '01 北九州工場での合成ソーダ灰製造(33万t/年)停止
ソルベー・ソーダアッシュ・ジョイントベンチャー社(米国)の生産能力増強
- '04 ソーダ灰輸入販売事業で住友商事と合併会社を設立(ソーダ・アッシュ・ジャパン社)

■ その他

- '01 珪酸ソーダ事業を海外に生産シフト
日本珪酸ソーダ社解散、ビンツルシリカ・インダストリー社(マレーシア)増強
- '02 北九州工場化学品製造停止と重曹を鹿島工場へ集約化
- '03 旭ペンケミカルを100%子会社化
- '04 塩安肥料事業を再編
日本合同肥料社とセントラル硝子社で販売合併会社設立(セントラル合同肥料社)

インドネシア アサヒマスケミカル社概要



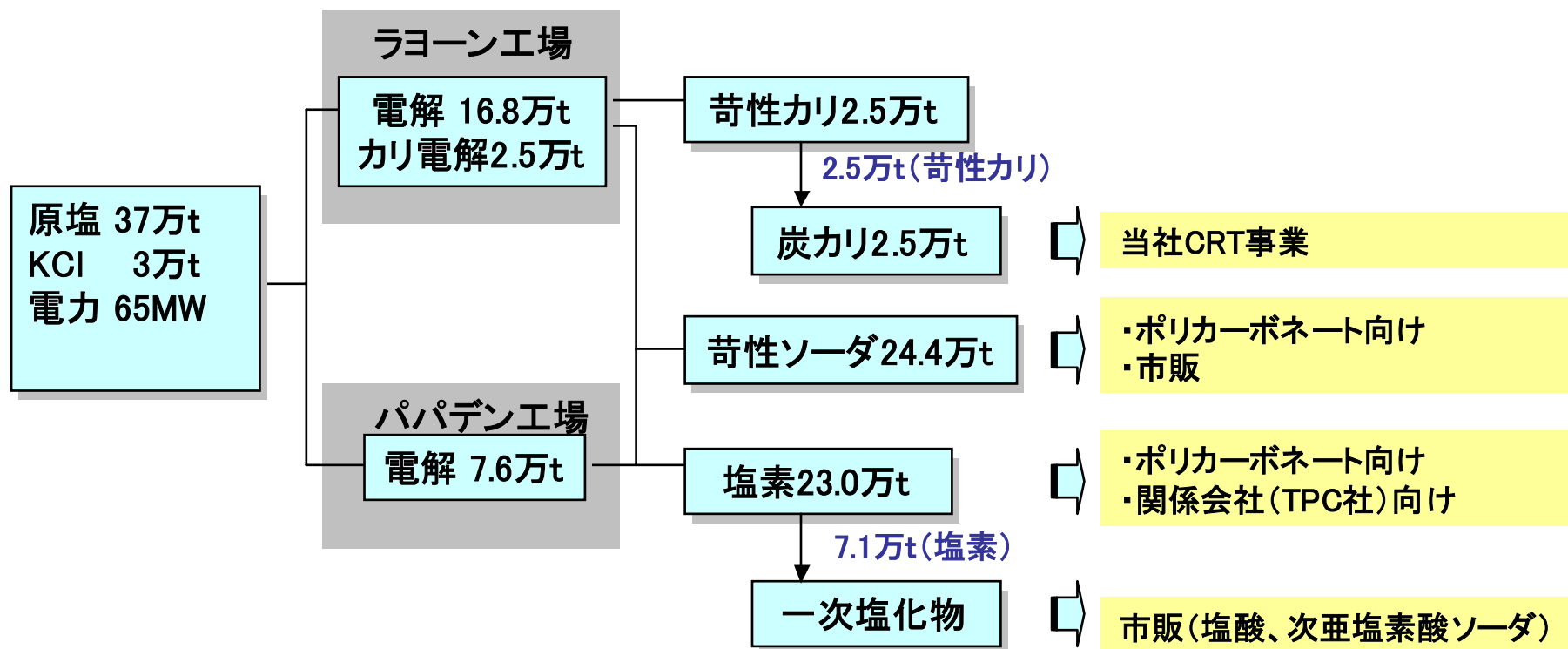
- ・1986年 設立
- ・資本金 USD42m
- ・出資比率 52.5%
- ・従業員 1,200人

強み

- 国内No.1シェア(苛性ソーダ 66%、塩ビ 59%)
- PVC, VCM, EDCの、市況に応じたフレキシブルなプロダクトミックス

(チャート内の使用量、能力は年間表示)

タイ タスコケミカル社概要



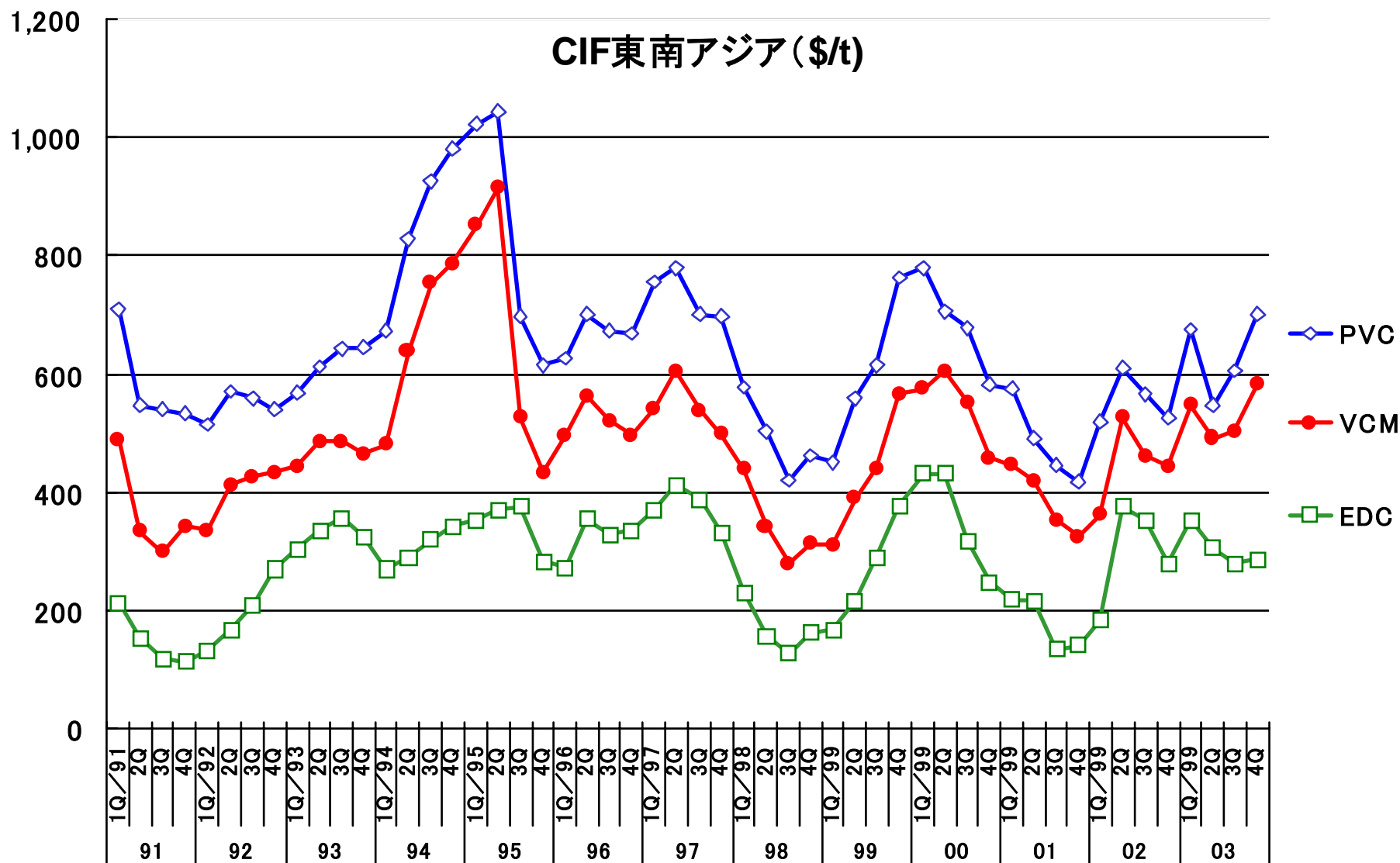
- ・1964年 設立
- ・資本金 BHT2,800m
- ・出資比率 99.85%
- ・従業員 476人

強み

- 苛性ソーダの国内No.1シェア(44%)
- ポリカーボネート客先に苛性ソーダ、塩素の40%を販売(長期契約により安定収益を確保)

(チャート内の使用量、能力は年間表示)

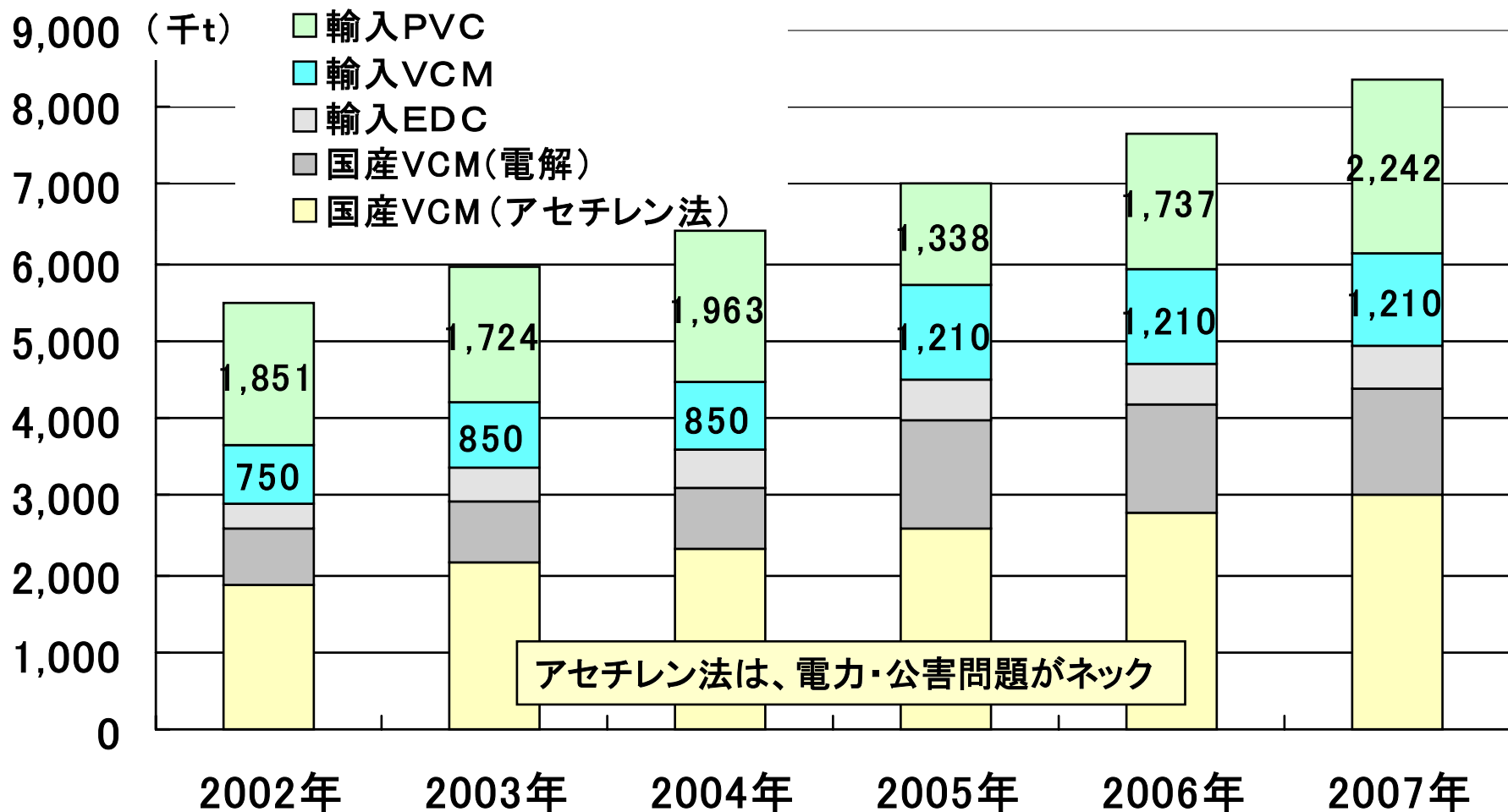
(参考)塩ビ系製品の価格変動



(出典:ハリマンレポート)

(参考) 中国塩ビバランス

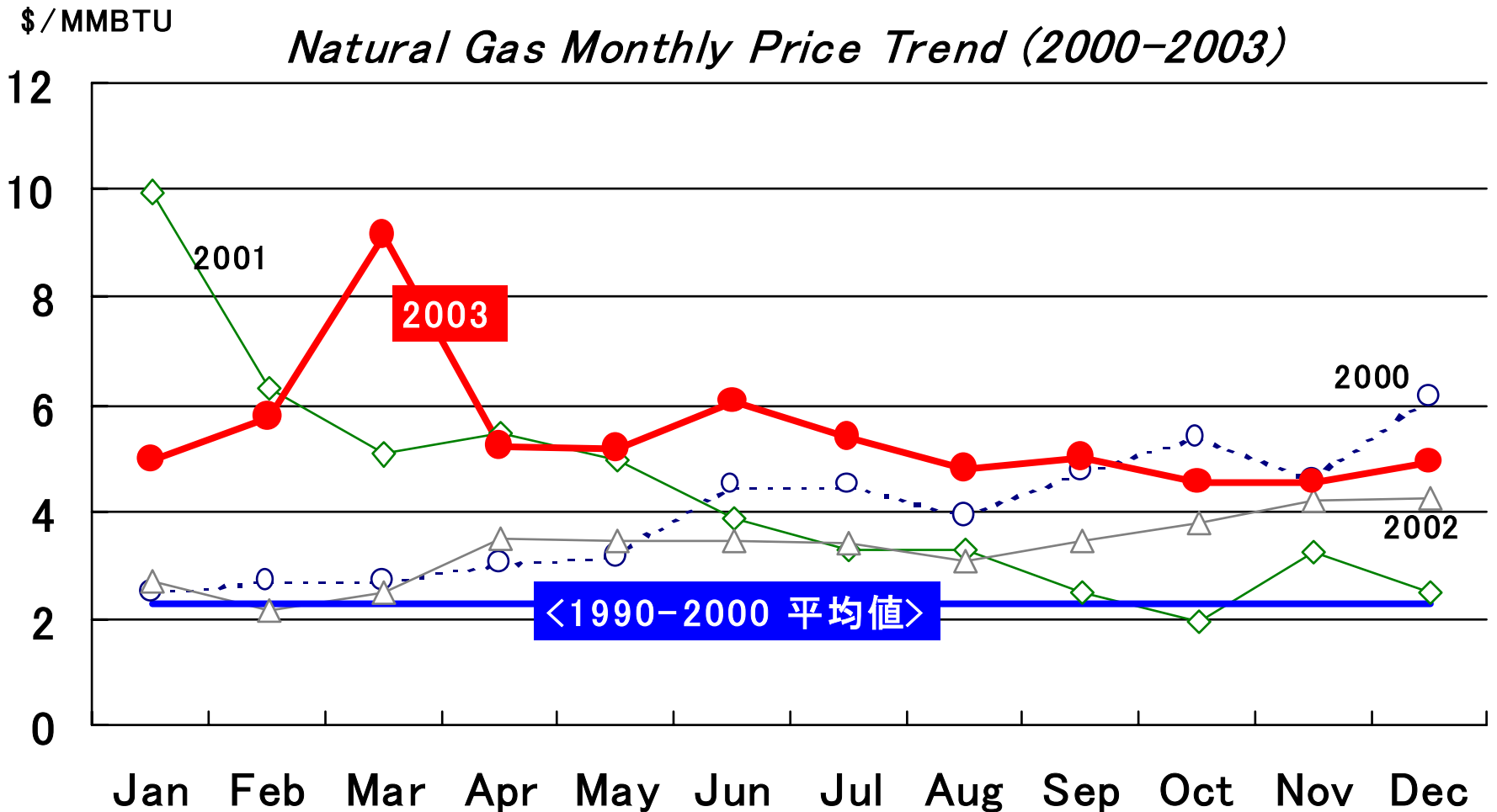
- 中国の塩ビ需要増は旺盛で、700万トに迫っている(日本:150万ト)
- VCM輸入依存体質は続き、当面、需給タイト状況は継続する見通し



(当社推定)

(参考) 北米の天然ガスの高止まり傾向

- 2000年以降、天然ガスの価格は高騰し構造的に継続する見通し
- コスト競争力を失った他社北米電解は、2000年以降既に170万トンのShut-downを実施



(出典: CMAI)

3. ウレタン、無機・有機スペシャリティー事業

ウレタン、無機・有機スペシャリティー事業の戦略

■ウレタン事業戦略

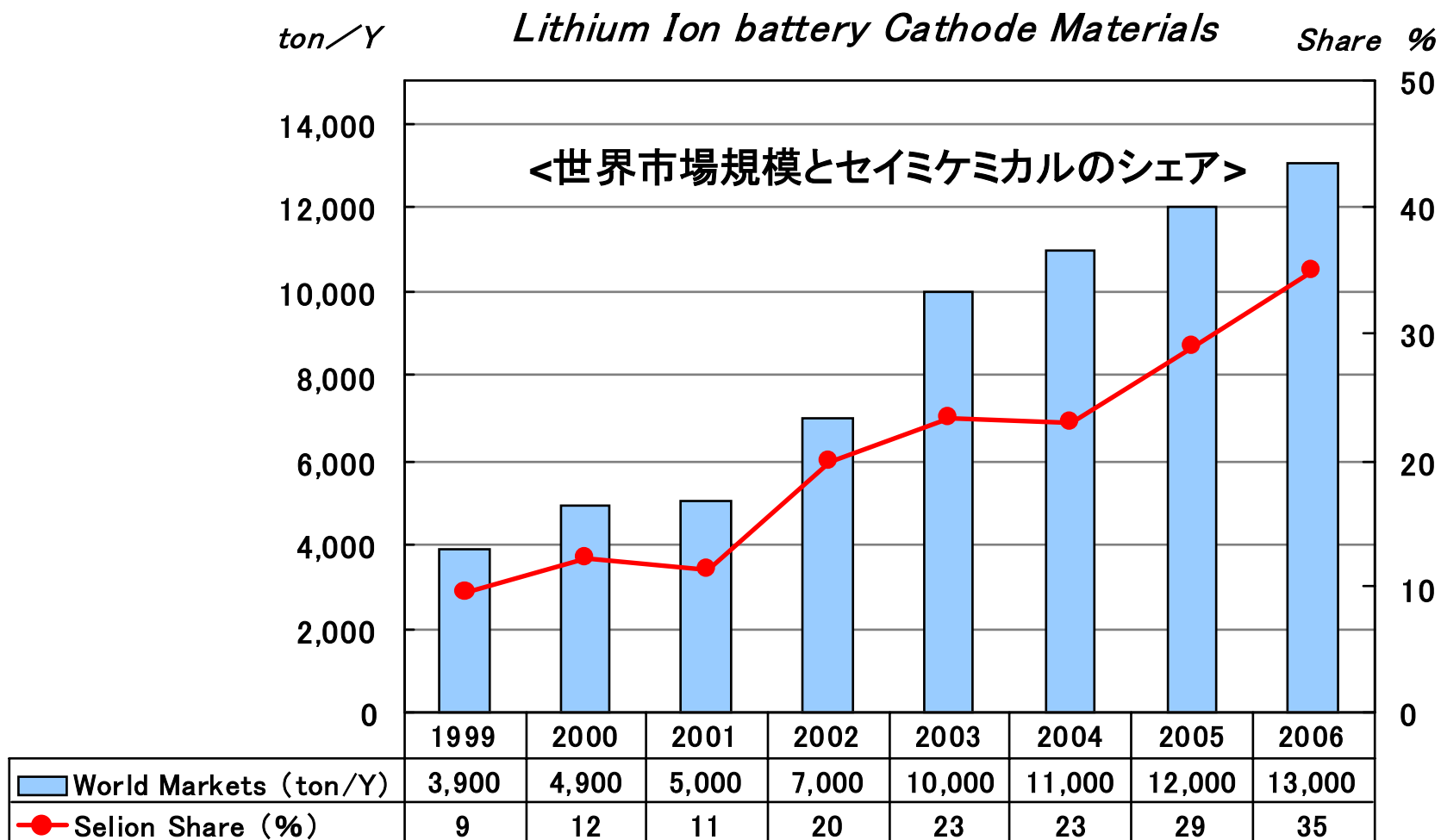
- プロピレンと塩素を原料とするプロピレンオキサイド(PO) を出発点とし幅広い用途を持つ各種のウレタン原料・ウレタン中間製品を生産
- 汎用品の価格下落に対応するため、高機能化学品の開発を進め、収益性を向上させる
 - ✓ 高機能化比率(売上高比) '03年 24%→'04年30%目標

■無機・有機スペシャリティー事業戦略

- 成長分野に、独自技術をもってソリューションを提供する
- リチウムイオン電池正極材料:
新技術商品により世界シェア1/3以上の業界トップを目指す
- 高画質インクジェットプリンター用紙「ピクトリコ」:
カラープルーフ向けの市場投入(OEM販売に加え、量販店・インターネット販売を開始)
- ファインシリカ:
独自の超微粒子技術を特徴に化粧品・医薬品精製用途に展開

リチウムイオン電池事業

■新技術商品により世界シェア1/3以上の業界トップを目指す

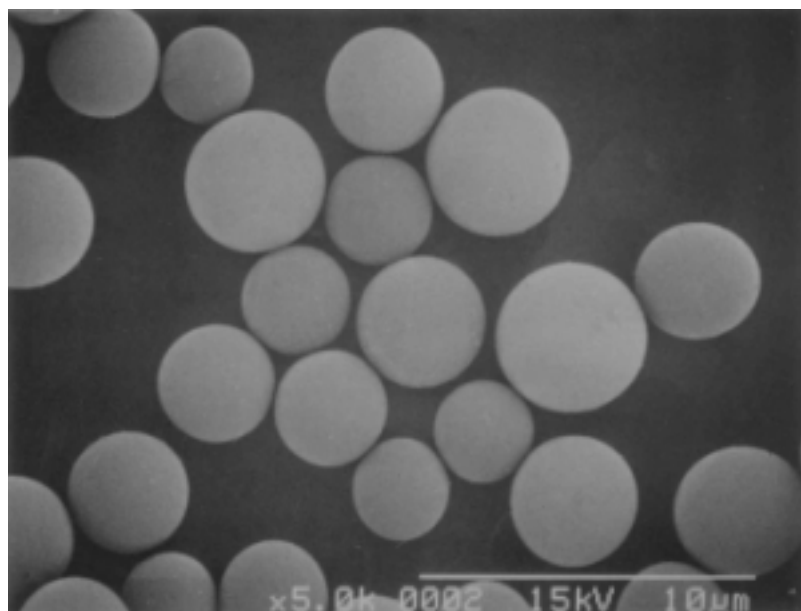


(シェアは当社推定)

ファインシリカ事業

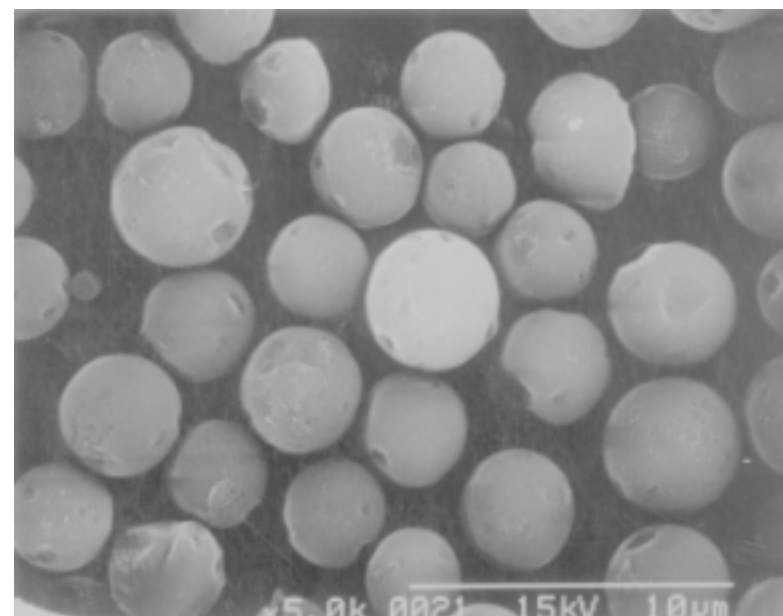
- 独自の超微粒子技術を特徴に化粧品・医薬品精製用途に展開

当社 真球状多孔質シリカ微粒子



※当社100%子会社洞海化学工業の製品

他社同用途品





旭硝子株式会社

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
新有楽町ビル 〒100 - 8405

問合わせ先:経営企画室(IR担当)

E-mail : investor-relations@agc.co.jp

T E L : 03-3218-5064

F A X : 03-3218-7800

www.agc.co.jp